

みずほマーケット・トピック(2017年9月15日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- ・ 今週のドル/円相場は堅調に推移した。北朝鮮が建国記念日の9日に軍事行動をとらず、また米国で発生したハリケーン「イルマ」の勢力が弱まったことから、週明け11日のドル/円はギャップアップして108円台前半でオープン。一時週安値となる108.05円をつけたが、北朝鮮リスクの後退を背景に109円台半ばまで上値を切り上げた。12日は、ムニューシン米財務長官の税制改革に対する前向きな発言や、7月の米求人労働移動調査(JOLTS)で求人件数が調査開始以来最多となったことを受け、ドル/円は110円を上抜けた。もっとも、同水準では売り意欲もみられ、13日は上値が重い値動きとなった。しかし、ブレイディ米下院歳入委員長の「税制改革案を9月25日の週に発表する」との発言を受けドル買い優勢の展開となると、ドル/円は110円台後半まで上昇した。14日は中国経済指標の冴えない結果などを背景に110円台半ばでじり安となったものの、米8月消費者物価指数(CPI)が予想を上回り、米金利が急上昇するとドル/円は一時週高値となる111.05円まで買い進められた。しかし、111円台での定着は難しく、その後は米金利低下を横目に110円前半まで反落する流れに。本日は朝方に北朝鮮がミサイルを発射したことを受けてドル/円は一時109円台半ばまで急落したが、直ぐに落ち着きを取り戻し、110円台を回復している。
- ・ 今週のユーロ/ドル相場は軟調な展開となった。週初11日に1.20台前半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週高値となる1.2030をつけたが、クーレ ECB 理事がユーロの上昇はインフレを抑制しかねないと発言したほか、堅調な米株や米金利上昇を背景としたドル買いに1.19台半ばまで下落した。12日もドル買いが強まりユーロ/ドルは1.19台前半まで値を下げたが、このレベルではユーロ買い意欲も強く1.19台後半まで反発。しかし、積極的に上値を追う展開とはならず1.19台半ばで推移した。13日は米税制改革期待の高まりなどを受け、ユーロ/ドルは1.18台後半まで急落。14日は、スметツ・ベルギー中央銀行総裁がユーロ圏のインフレは底入れしたとの認識を示すと1.19台まで上昇したが、米8月CPIが予想を上回ると一時週安値となる1.1837まで下落。だが、バイトマン独連銀総裁の金融政策正常化に前向きなコメントや米金利低下を受けて、ユーロ/ドルは1.19台前半を回復した。本日も同水準での推移が続いている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		9/8(Fri)	9/11(Mon)	9/12(Tue)	9/13(Wed)	9/14(Thu)
ドル/円	東京9:00	108.28	108.25	109.41	110.23	110.51
	High	108.48	109.51	110.25	110.69	111.05
	Low	107.32	108.05	109.24	109.91	110.07
	NY 17:00	107.85	109.40	110.18	110.48	110.23
ユーロ/ドル	東京9:00	1.2028	1.2015	1.1958	1.1971	1.1889
	High	1.2092	1.2030	1.1978	1.1995	1.1923
	Low	1.2014	1.1948	1.1927	1.1873	1.1837
	NY 17:00	1.2037	1.1952	1.1967	1.1886	1.1920
ユーロ/円	東京9:00	130.27	130.10	130.84	131.93	131.38
	High	130.66	130.90	131.90	132.02	131.74
	Low	129.47	129.90	130.69	131.26	131.15
	NY 17:00	129.72	130.73	131.83	131.33	131.43
日経平均株価		19,274.82	19,545.77	19,776.62	19,865.82	19,807.44
TOPIX		1,593.54	1,612.26	1,627.45	1,637.33	1,632.13
NYダウ工業株30種平均		21,797.79	22,057.37	22,118.86	22,158.18	22,203.48
NASDAQ		6,360.19	6,432.26	6,454.28	6,460.19	6,429.08
日本10年債		0.00%	0.01%	0.02%	0.03%	0.05%
米国10年債		2.05%	2.13%	2.17%	2.19%	2.18%
原油価格(WTI)		47.48	48.07	48.23	49.30	49.89
金(NY)		1,346.45	1,327.46	1,331.81	1,323.24	1,329.69

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・来週、米国では19～20日にかけてFOMCが開催される。FRBはFF金利誘導目標を1.00～1.25%に据え置くと同時に、4兆5000億ドル規模のバランスシートの段階的縮小を10月に開始する方針および計画を決定する見通しである。7月FOMCでバランスシートの縮小を近く開始すると公表して以降も市場は落ち着いているほか、債務上限引き上げ法案が可決されたことで、FRBが10月にバランスシートの縮小を開始する条件は整っている。今会合はイエレンFRB議長の記者会見があるほか、FOMC参加者の政策金利見通し(ドットチャート)も公表される。6月時点で予想の大半を占めていた年内あと1回の利上げを見込むメンバーがまだ何人残っているのか、イエレン議長が加速してこないインフレを踏まえて何を語るのかに注目したい。
- ・経済指標では、19日(火)に8月住宅着工件数の発表がある。7月の住宅着工件数は前月比▲4.8%の年率+115.5万件と減少したが、急増した前月(同+7.4%)の反動が現れた格好である。着工の先行指標となる住宅建設許可件数も7月は前月比▲3.5%の年率+123.0万件と減少したものの、着工と同様に前月に急増した反動という側面があり、8月の住宅着工は前月比+2.2%の年率+118.0万件と増加する見通しである。なお、8月の住宅建設許可件数は前月比▲0.8%の年率+122.0万件と減少すると見込まれている。また、20日(水)には8月中古住宅販売の発表が予定されている。先行指標である中古住宅販売留保指数が減少したものの、住宅ローン金利の低下傾向が続く中、8月の中古住宅販売も前月比+0.6%の年率+547万件と予測されている。このほか、21日(木)には9月フィラデルフィア連銀製造業景気指数の発表などが予定される。
- ・本邦では、20～21日にかけて日銀金融政策決定会合が予定されている。結論から言えば、現状維持と見て良いだろう。4～6月期の実質GDP成長率は2次速報で下方修正されたものの高めの成長となったほか、7～9月期の鉱工業生産も増産基調を維持する見通しであり、景気回復が続きそうである。インフレ率は日銀の想定に比べれば弱めだが、緩やかな上昇基調にあるため、物価上昇のモメンタムが維持されているとの判断は継続するとみられる。

	本 邦	海 外
9月15日(金)	_____	・ユーロ圏7月貿易収支 ・米9月ニューヨーク連銀製造業景気指数 ・米8月小売売上高 ・米8月鉱工業生産 ・米9月ミシガン大学消費者マインド指数(速報)
18日(月)	敬老の日	・ユーロ圏8月消費者物価(確報) ・米7月TICレポート(対外対内証券投資)
19日(火)	_____	・ユーロ圏7月経常収支 ・独9月ZEW景況指数 ・米8月住宅着工 ・米FOMC(～20日)
20日(水)	・8月貿易収支 ・日銀金融政策決定会合(～21日)	・米8月中古住宅販売
21日(木)	_____	・米9月フィラデルフィア連銀製造業景気指数 ・米8月景気先行指数
22日(金)	_____	・ユーロ圏9月製造業PMI(速報) ・ユーロ圏9月サービス業PMI(速報)

【当面の主要行事日程(2017年9月～)】

米FOMC(10月31日～11月1日、12月12～13日、1月30～31日)

ECB政策理事会(10月26日、12月14日、1月25日)

日銀金融政策決定会合(10月30～31日、12月20～21日、1月22～23日)

ドイツ総選挙(9月24日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー(2017年9月)

月	火	水	木	金	週末
				1 日本 自動車販売台数(8月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、8月) 米国 雇用統計(8月) 米国 失業率(8月) 米国 ISM製造業景気指数(8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、8月) 米国 建設支出(7月)	
4 日本 マネタリーベース(8月)	5 ユーロ圏 サービス業PMI(確報、8月) ユーロ圏 GDP(確報、4～6月期) 米国 労働市場情勢指数(8月) 米国 製造業新規受注(7月) 米国 耐久財受注(確報、7月)	6 日本 毎月勤労統計(7月) ドイツ 製造業受注(7月) 米国 貿易収支(7月) 米国 ISM非製造業景気指数(8月) 米国 ページブック	7 日本 景気動向指数(速報、7月) ドイツ 鉱工業生産(7月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)	8 日本 国際収支(7月) 日本 GDP(確報、4～6月期) 日本 貸出・預金動向(8月) 日本 景気ウォッチャー調査(8月) ドイツ 貿易収支(7月) 米国 卸売売上高(7月) 米国 消費者信用残高(7月)	
11 日本 機械受注(7月) 日本 マネーストック(8月) 日本 第三次産業活動指数(7月)	12 日本 国内企業物価(8月)	13 ドイツ 消費者物価(確報、8月) ユーロ圏 鉱工業生産(7月) 米国 生産者物価(8月) 米国 財政収支(8月)	14 日本 鉱工業生産(確報、7月) 米国 消費者物価(8月)	15 ユーロ圏 貿易収支(7月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(9月) 米国 小売売上高(8月) 米国 鉱工業生産(8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、9月) 米国 企業在庫(7月)	
18 日本 敬老の日 ユーロ圏 消費者物価指数(確報、8月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(7月)	19 ユーロ圏 経常収支(7月) ドイツ ZEW景況指数(9月) 米国 住宅着工(8月) 米国 FOMC(～20日)	20 日本 貿易収支(8月) 日本 日銀金融政策決定会合(～21日) 米国 中古住宅販売(8月)	21 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(9月) 米国 景気先行指数(8月)	22 ユーロ圏 製造業PMI(速報、9月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、9月)	24 フランス 上院議会選挙 ドイツ 連邦議会選挙
25 日本 景気動向指数(確報、7月) ドイツ IFO企業景況指数(9月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(8月)	26 日本 企業向けサービス価格(8月) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(7月) 米国 新築住宅販売(8月) 米国 消費者信頼感指数(9月)	27 米国 耐久財受注(速報、8月)	28 ドイツ 消費者物価(速報、9月) 米国 GDP(3次速報、4～6月期) 米国 個人消費(3次速報、4～6月期) 米国 PCEコアデフレーター(3次速報、4～6月期)	29 日本 失業率(8月) 日本 家計調査(8月) 日本 全国消費者物価(8月) 日本 東京都都区消費者物価(9月) 日本 鉱工業生産(速報、8月) 日本 新設住宅着工(8月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、9月)	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー (2017年10月)

月		火		水		木		金		週末	
2		3		4		5		6			
日本 日銀短観(7～9月期) 日本 自動車販売台数(9月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、9月) ユーロ圏 失業率(8月) 米国 ISM製造業景気指数(9月) 米国 建設支出(8月)		日本 マネタリーベース(9月)		ユーロ圏 サービス業PMI(確報、9月) 米国 ADP雇用統計(9月) 米国 ISM非製造業景気指数(9月)		ユーロ圏 ECB理事会議事要旨(9月7日開催分) 米国 貿易収支(8月) 米国 製造業新規受注(8月) 米国 耐久財受注(確報、8月)		日本 毎月勤労統計(8月) 日本 景気動向指数(速報、8月) ドイツ 製造業受注(8月) 米国 雇用統計(9月) 米国 失業率(9月) 米国 卸売売上高(8月) 米国 消費者信用残高(8月)			
9		10		11		12		13			
日本 体育の日 ドイツ 鉱工業生産(8月)		日本 国際収支(8月) 日本 景気ウォッチャー調査(9月) ドイツ 貿易収支(8月) ユーロ圏 財務相会合(ルクセンブルク)		日本 機械受注(8月) 米国 FOMC議事要旨(9月19～20日開催分)		日本 貸出・預金動向(9月) 日本 第三次産業活動指数(8月) ユーロ圏 鉱工業生産(8月) 米国 生産者物価(9月) ワシントン(米国) G20財務相・中央銀行総裁会合(～13日)		日本 国内企業物価(9月) 日本 マネーストック(9月) ドイツ 消費者物価(確報、9月) 米国 消費者物価(9月) 米国 小売売上高(9月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、10月) 米国 企業在庫(8月)			
16		17		18		19		20			
日本 鉱工業生産(確報、8月) ユーロ圏 貿易収支(8月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(10月)		ユーロ圏 消費者物価指数(確報、9月) ドイツ ZEW景況指数(10月) 米国 鉱工業生産(9月) 米国 TICレポート(対外対内証券投資)(8月)		日本 住宅着工(9月) 米国 ページュブック		日本 貿易収支(9月) 米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(10月) 米国 景気先行指数(9月)		ユーロ圏 経常収支(8月) 米国 中古住宅販売(9月)			
23		24		25		26		27			
日本 景気動向指数(確報、8月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(9月)		ユーロ圏 製造業PMI(速報、10月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、10月)		ドイツ IFO企業景況指数(10月) 米国 耐久財受注(速報、9月) 米国 新築住宅販売(9月)		日本 企業向けサービス価格(9月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト)		日本 全国消費者物価(9月) 日本 東京都都区消費者物価(10月) 米国 GDP(1次速報、7～9月期) 米国 個人消費(1次速報、7～9月期) 米国 PCEコアデフレーター(1次速報、7～9月期) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、10月)			
30		31									
日本 日銀金融政策決定会合(～31日) ドイツ 消費者物価(速報、10月) 米国 個人消費・所得(9月)		日本 失業率(9月) 日本 家計調査(9月) 日本 鉱工業生産(速報、9月) 日本 新設住宅着工(9月) ユーロ圏 失業率(9月) ユーロ圏 GDP(1次速報、7～9月期) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、10月) 米国 雇用コスト(7～9月期) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(8月) 米国 消費者信頼感指数(10月) 米国 FOMC(～11月1日)									

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2017年9月14日	日銀金融政策決定会合プレビュー～総括的「再」検証も視野に～
2017年9月13日	ユーロ圏金融状況指数(MCI)に見るユーロ高の影響などについて
2017年9月12日	ケール理事発言の真意～ユーロ高はもう看過できない～
2017年9月11日	円相場の基礎的需給環境～ドルインデックス半値押しで思うこと～
2017年9月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～解せないユーロ買い～)
2017年9月7日	タカ派の劣勢が強まるFOMC～フィッシャー辞任を受けて～
2017年9月6日	追い込まれる日銀～倒錯した政策運営の現状・展望～
2017年9月5日	ECB政策理事会プレビュー～テーパリングまで至るのか?～
2017年9月4日	ユーロ買いに対する現状認識について
2017年9月1日	週末版
2017年8月30日	メインシナリオへのリスク点検～急浮上してきた地政学リスク～
2017年8月29日	北朝鮮ミサイル発射と円急騰を受けて
2017年8月28日	ジャクソンホール講演～イエレン・ドラギ講演のレビュー～
2017年8月25日	週末版
2017年8月23日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年7月分)
2017年8月18日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(7月20日開催分)～強まる為替への問題意識～)
2017年8月17日	FOMC議事要旨を受けて～疑われるフィリップス曲線～
2017年8月16日	17年上半期の対米証券投資～下半期に向けてのみどころ～
2017年8月15日	米インフレ期待の現状について～NY連銀消費者調査～
2017年8月14日	VIX急騰で断たれるキャリー取引の芽と不安な米株調整
2017年8月10日	週末版
2017年8月9日	2017年上半期の円の基礎的需給環境などについて
2017年8月8日	技術的難しさが極まるECBの量的緩和の現状
2017年8月7日	米7月雇用統計～加速しない賃金と伸び悩む「質」～
2017年8月4日	週末版(ユーロ圏のフィリップス曲線の現状～フラット化して下方シフト～)
2017年8月3日	フォワードルッキングという幻想～OECD景気先行指数を通じて～
2017年8月2日	フォワードルッキングという幻想～日銀議事要旨が示唆する戒め～
2017年8月1日	実効相場で考えるドル相場の現状～調整は始まったばかり～
2017年7月28日	週末版(メインシナリオへのリスク点検～新しいリスクは「安倍退陣」と「正常化ブーム」～)
2017年7月27日	FOMCを終えて～後任人事を見据えてハト派化も?～
2017年7月26日	ECB政策理事会の読み方～シントラ発言の火は消せず～
2017年7月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年6月分)
2017年7月21日	週末版(日銀金融政策決定会合を受けて～次の論点は外交的視点～)
2017年7月20日	最近のユーロ相場について～投機筋、PPP、金利差～
2017年7月19日	ECB政策理事会プレビュー～「火に油」を避けるべく…～
2017年7月14日	週末版(ドル/円相場の水準感について～現状の「異常さ」を見つめ直す～)
2017年7月13日	イエレン議会証言を受けて～花道的正常化は続く模様～
2017年7月12日	EU回帰でドイツは変わるのか?
2017年7月11日	正常化ブームの中で考えたい各国中銀の立ち位置
2017年7月10日	円相場の基礎的需給環境～円キャリーの兆候はあるか?～
2017年7月7日	週末版(ECB政策理事会議事要旨～ドラギ総裁はしじった模様～)
2017年7月6日	FOMC議事要旨～正常化は資産バブル対応?～
2017年7月5日	ECB版テーパ・タントラムの現状と展望
2017年7月4日	ドル安・円安の読み方～「正常化」ブームは流れを変えるのか～
2017年7月3日	都議選の影響を考える～新しいリスクの浮上～
2017年6月30日	週末版
2017年6月28日	ドラギ講演を受けて～「一時的」が流行る風潮の危うさ～
2017年6月27日	メインシナリオのリスク点検～引き続き目立つ円高材料～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年5月分)
2017年6月26日	ブラットECB理事発言を考える～影響力は侮れず～
2017年6月23日	週末版
2017年6月22日	対内・対外証券投資の近況～リセットされたトランプトレード～
2017年6月21日	カシュカリ・エッセイから学ぶこと～信仰(faith)とデータ(data)～
2017年6月19日	日銀金融政策決定会合～「座して円高を待つ」状況へ～
2017年6月16日	週末版
2017年6月15日	FOMCを終えて～「笛吹けど踊らず」の状況強まる～
2017年6月14日	ユーロ相場の本格反転に必要なもの
2017年6月13日	盛り上がらない米国のインフレ期待や与信環境について
2017年6月12日	ECB政策理事会～「露払い」としてのFG文言修正～
2017年6月9日	週末版(英総選挙を受けて～「不要なギャンブル」の成れの果て～)
2017年6月8日	英下院総選挙について～直前の論点整理～
2017年6月7日	110円割れで思うこと～変わり始めた欧米の論調～
2017年6月5日	日銀総資産500兆円突破を受けて～杞憂の出口議論～
2017年6月2日	週末版(ECB政策理事会プレビュー～出口戦略の順序に変更なし～)
2017年6月1日	2016年末対外資産・負債残高統計～リスク回避の源泉～
2017年5月29日	メインシナリオのリスク点検～目立つ円高リスク～
2017年5月26日	週末版(本邦4月消費者物価指数(CPI)を受けて～依然、埋まらない日米物価格差～)
2017年5月25日	FOMC議事要旨を受けて～株価は耐えられるのか?～
2017年5月24日	相次いで弱体化するFRB高官～動揺する唯一の支え～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年4月分)
2017年5月23日	メルケル首相発言を受けて～異形のドイツがすべきこと～
2017年5月22日	ドル相場の現状認識～4月分REERの公表を受けて～
2017年5月19日	週末版
2017年5月17日	ドルインデックスの急落を受けて
2017年5月16日	ユーロ相場の現状について～投機買い持ちでも上がらず～
2017年5月15日	イタリアG7を終えて～「量」か「価格」か「説得」か～
2017年5月12日	週末版(欧州委員会春季経済予測を受けて～今後心配な「スラックの格差」～)
2017年5月11日	円相場の基礎的需給環境～様変わりする景色～
2017年5月10日	米インフレ期待低迷が映す米経済への過信
2017年5月9日	米商務省声明が予感させる「理不尽な円高」
2017年5月8日	フランス大統領選挙を受けて～おさらいすべきフランスの現状～
2017年4月28日	週末版(ECB理事会を終えて～「次の一手」は引き締めが濃厚～)
2017年4月27日	ECB理事会プレビュー～フォワードガイダンス撤廃報道について～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2017年3月分)
2017年4月25日	メインシナリオのリスク点検～燦る「第二次ブラザ合意」疑惑～
2017年4月24日	フランス大統領選挙第1回投票～終わらない政治リスク～
2017年4月21日	週末版(ECB理事会プレビュー～争点はフォワードガイダンスの取り扱い～)
2017年4月20日	米金利低下と円高相場～投資家は「外」から「内」へ～
2017年4月19日	英総選挙の前倒し実施～「絶対に負けられない戦い」へ～
2017年4月17日	米為替政策報告書の読み方
2017年4月14日	週末版(依然として懸念されるユーロ圏の域内格差～顕著になる「地力の差」～)